63 期生

３年生学年だより

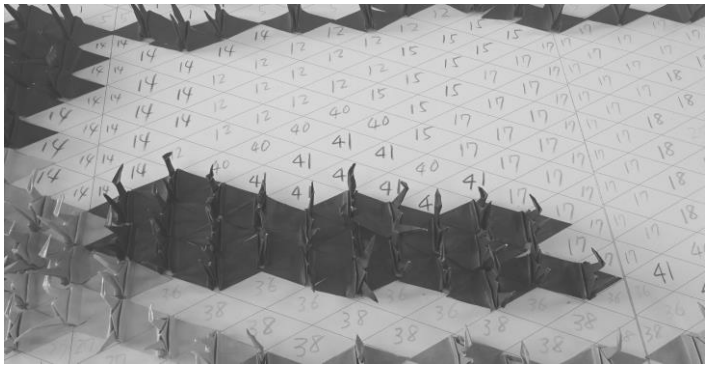
豊中市立第五中学校　2016 年 12 月 12 日(月)　No.25

人権フェスタひまわり！！

人権について学んできたことをクラスや学年、そして学校全体で共有し、さらに一人一人が夢バトンについて考えるきっかけをつくるために毎年行っている大切な行事である「人権フェスタひまわり」。２学期を締めくくる最後の大きな行事が 12 月９日(金)の午後に行われました。

この人権フェスタひまわり、思い起こせば２年前…みなさんが１年生の時には「未来につなげる夢バトン」の合唱を行い、堂々とした歌声を2.3年生や保護者の方たちを前に披露しました。１年前の２年生の時には、舞台に上がるのは一部の人たちだけでしたが、全員で大きな声を出して光の文字を読み上げ、(そういえば、湖畔学舎の前にも体育館で何度も練習しましたね…懐かしい！)その後、スライドを映して２年生としての発表を行いました。

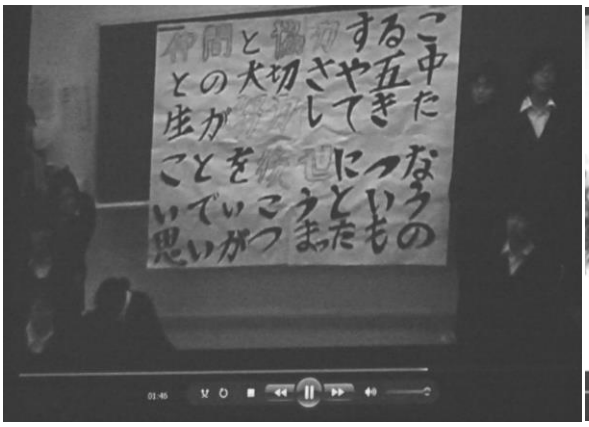
今回、３年生としてどのような形で夢バトンをつないでいくのか？議員さんたちを中心に話し合いが何度も行われました。



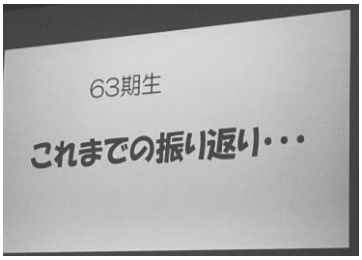
共同制作～ものづくりでつながる人と人～

　最初、一人が作らなくてはいけない折鶴の数を聞いて、正直「絶対無理…」と思った人はたくさんいたと思います。鶴一羽折るにも時間と手間がかかりますし、紙のサイズも千羽鶴用の小さいサイズのものでした。何より「折り方を知らない！」「折れない！」という人もいたと思います。期末テストや進路に向けての取り組みもある中、クラスで少しずつ小さな折鶴が日を増すごとに増えていき、何百、何千と保管用のペットボトルの中に溜まって様子は、まさに６３期生のみなさんのこれまでの努力が一つ一つ積み重なっていくような、そんな姿に感じられました。

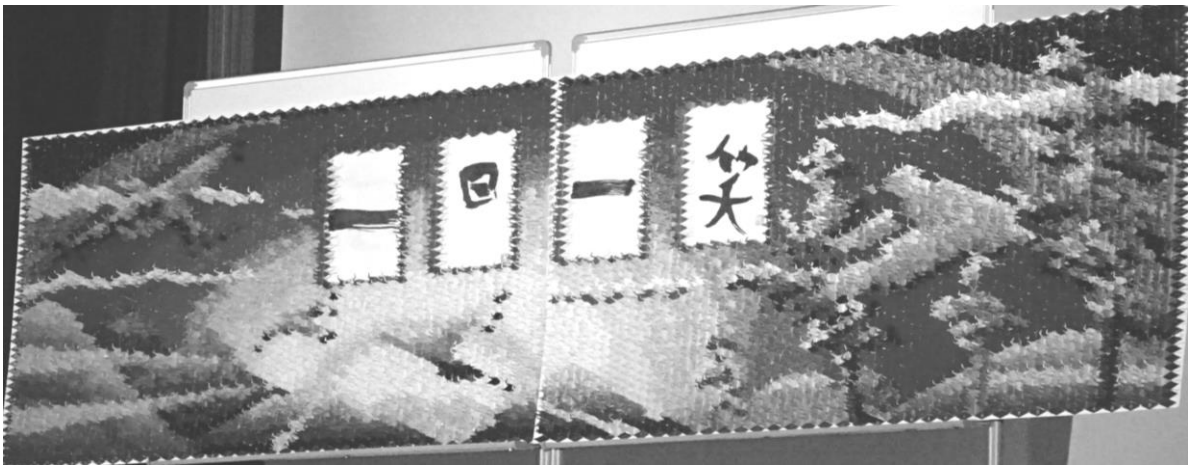
　ひまわり前日！というころ、各クラス、班別に折鶴を台紙に貼りに来てくれていましたが、それでも作品はまだまだ余白の隙間だらけ。放課後、有志の人たちがたくさん集まってラストスパート！！「絶対に明日に間に合わせよう！」「足りない色の鶴を折ってほしい！」と声を掛け合いながら必死に作業を進め、余白が少しずつ折鶴の美しい色合いで埋められていきました。

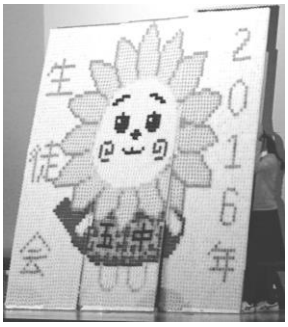


　さて、ひまわり当日。思いを込めた動画、そして完成した作品はみなさんの目にはどのように映ったでしょうか？「一日一笑」の文字。約６千羽の折鶴。一つ一つは小さいけれど、全部が集まると大きな力になる。まさに“作品＝６３期生”だと思います。決してひまわりで披露するためだけに作ったものではない、６３期生が大切にしてきたことを分かりやすく形にし、夢バトンをつないでいくために、確認し合うために作った作品なのです。作品として形になるまでに話し合ったこと、苦労したこと、失敗したこと、諦めなかったことなど、すべてが大きな学びにつながったのではないでしょうか。


63期生
これまでの振り返り・・・

先輩方から受け継いだ
と仲間や地域の方々と
築き上げた美しい絆


一回一笑


生
徒
会
2
0
1
6
年